修士論文（要旨）
2012 年 7 月

定年退職後の後期高齢者のサクセスフル・エイジングと
パーソナルネットワーク
―金融機関を定年退職後に非系列の職場に就職した事例分析から―

指導　　杉澤秀博教授

老年学研究科
老年学専攻
210J6902
佐瀬隆夫

目次

１．緒言・・１

１）研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２）先行研究のレヴュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３）研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２．研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

１）調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
２）調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３）分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４）倫理上の配慮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．結果・・３

１）全体ストーリーライン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２）カテゴリーの詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
(1)〔仕事を通して得た資産〕・・・・・・・・・・・４
(2)〔仕事の達成感〕・・・・・・・・・・・・・・・５
(3)〔経済的基盤〕・・・・・・・・・・・・・・・・５
(4)〔現役時代を継承した生き方〕・・・・・・・・・６
(5)〔職場と別の世界での生き方〕・・・・・・・・・６
(6)〔健康維持〕・・・・・・・・・・・・・・・・・７

４．考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

要　旨

本研究の対象者は、いずれも後期高齢者であり、
Ⅰ．金融機関よりパーソナルネットワークの活用により大学教授職（非系列の職場）[1]に転身した者（A 、B）
Ⅱ．系列金融機関出向者（C）
Ⅲ．金融機関子会社出向者（D）
Ⅳ．金融機関子会社ではない銀行支店取引先のオーナー企業出向者（E）[2]
であったが、分析の対象者は、Ⅰ．のみとする。Ⅱ．Ⅲ．Ⅳ．については、個人のパーソナルネットワークの影響がなかったからである。

したがって、今回の分析は、A、B を中心に退職・転職事情を中心に退職後の生活状態、健康状態をまとめたものである。

ただし、後期高齢者の経済状態、生活状態、健康状態に関心があるので、C、D、E についても意見を集約し、最後に全員の年金等の収入額、服用薬剤数の一覧表を添付した。

定年 55 歳の時代に、大学教授職に転身した A、B は、いずれも大学教授定年（70 歳）後も、中小企業経営者または中小企業顧問として元気で活躍している。

ここで特に指摘したいことは､パーソナルネットワークの重要性である｡金融機関で A、B が習得した知識、および A が取得した資格は、それ自身では生かされることはなく、パーソナルネットワークによって初めて生きる（機能する）ことに注意したい。また、E の場合には、ウマの合った医師のアドバイスで、20 年前にスポーツクラブに加入し、健康の維持に成功しているから、パーソナルネットワークが転職のみならず、生死を分けたといえなくはない。

すべてに共通していることは、年 500 万円以上の年金等の収入を確保し、経済的基盤を確立していることである。

後期高齢者になると、老化は避けがたく、服用薬剤数は毎年増加することになるが、面接時点（2011 年 11 月～12 月）での服用薬剤数は、0～7（毎日）と相対的に少ない。

キーワード：後期高齢者　サクセスフル・エイジング　パーソナルネットワーク　生きがい・生活の楽しみ　健康維持

---

[1]六大企業集団の系列企業　1998 年度六大企業集団（三井系、三菱系、住友系、芙蓉系、三和系、一勧系）が存在していた時期に、この都銀の場合、株式所有比率、融資比率の高い融資企業 1,059 社に対して合計 1,408 名の役員を派遣していた（『企業系列要覧』2000 年版　東洋経済新報社）。この企業を系列企業という。それ以外の退職行員は、銀行行員の受け皿企業となる銀行子会社に派遣される。これら以外は非系列の職場となる。

[2] E は銀行子会社への派遣を希望しないと人事部に申し出た。めずらしいケースであるといえる。その結果、営業店の支店長が行員の出向先を斡旋すると報奨金が支払われる制度にもとづいて斡旋したオーナー企業 3 社に出向したが、E は「これは失敗だった」と語った。オーナー社長が「銀行からの借入れの書類に自分で印を押さず、押させられた」ことなどがあったからである。そのため、1992 年出向したとき、〔ストレスで〕暴飲暴食で肥満していた。が、丸紅で知り合ったウマが合った医師から痩せるように言われ、1993 年 3 月スポーツクラブに加入、「あの医師に会わなかったら、もう死んでいたかもしれない」という。E は、人事部に頼んで銀行関連の財団の事務局長に就任することになった。

参考文献

1）藤原妙子：「定年退職を経験した既婚女性の社会参加の意味付け」桜美林大学大学院老年学専攻修士論文（2010）。

2）Friedman, H. S. and Leslie R. Martin：*The Longevity Project Surprising Discoveries for Health and Long Life from the Landmark Eight – Decade Study*. New York：Hudson Street Press, 2011.

3）日野原重明:『「新老人」を生きる　知恵と身体情報を後世に遺す』光文社、東京（2001）。

4）藤村正之：「社会参加、社会的ネットワークと情報アクセス」平岡公一編『高齢期と社会的不平等』、29－50、東京大学出版会、東京（2001）。

5）芳賀博：「高齢者の生活満足度 Well – Being のアセスメント」Geriatric Medicine, vol. 40 No.1, 2002.

6）古谷野亘、西村昌記、安藤孝敏、浅川達人、堀田陽一：「都市男性高齢者の社会関係」、1：83－88（2000）。

7）古谷野亘、安藤孝敏編：『改訂・新社会老年学：シニアライフのゆくえ』、141－152、ワールドプランニング、東京（2008）。

8）木下康仁：『グラウンデッド・セオリー・アプローチ　質的実証研究の再生』弘文堂、東京（2008）。

9）宮城音弥：『人間年輪学入門―熟年・高年―』岩波書店、東京（1982）。

10）長田由紀子：「回想的分析」斉藤耕二・本田時雄編著『ライフコースの心理学』、94－102、金子書房、東京（2001）。

11）「日本の経営学者」大調査、46－85、『日経ベンチャー』1989、7 月号。

12）OT のむすぼれ研究会：『作業療法で出会った人々　むすぼれのはじまり』事務局：佛教大学　苅山和夫（2006）。

13）ローウェ、ジョン・W, ロバート・L・カーン：翻訳者　関根一彦：『年輪の嘘　医学が覆した 6 つの常識』、日経 BP 社、東京（2000）。

14）柴田博・長田久雄・杉澤秀博編:『老年学要論―老いを理解する―』、建帛社、東京（2007）。

15）柴田博：『中高年健康常識を疑う』、講談社、東京（2008）。

16）原田謙・杉澤秀博・浅川達人・斉藤民：「大都市部における後期高齢者の社会的ネットワークと精神的健康」、『社会学評論』55 巻 4 号、434－448、（2005）。

17）杉澤秀博：「領域別にみたサクセスフル・エイジングの概念と測定指標の特徴―米国における展開過程を中心に」、藤崎・平岡・三輪編著：「ミドル期の危機と発達―人生の最終章までウェルビーイング」、23－47、金子書房、東京（2008）。

18）徳田直子・杉澤秀博：「女性定年退職者の退職後の楽しみ・生きがい：現役時代の経験との関連について」桜美林大学大学院老年学研究科「老年学雑誌」、2011 年 3 月 20 日、創刊号。

19）渡辺深：「転職―転職結果に及ぼすネットワークの効果」、『社会学評論』42 巻 1 号、2－16（1991）。